

北海道大学

科学技術コミュニケーター養成ユニット  
(CoSTEP)

# 受講生募集要項

2007年度 第1次募集

2007年2月

## 目次

<b>1</b>	<b>募集要項</b>	<b>3</b>
1.1	受講資格	3
1.2	募集人員	3
1.3	開講期間	3
1.4	受講申込みの方法	3
1.5	受講生の選抜方法	4
1.6	受講を認める方の発表	5
1.7	受講料	5
1.8	履修方法	6
1.9	評価方法	7
1.10	修得・修了の要件	7
1.11	e-Learningで受講するための環境	7
<b>2</b>	<b>カリキュラム概要</b>	<b>8</b>
2.1	講義	8
2.2	演習	9
2.3	実習（作品制作を含む）	10
<b>3</b>	<b>問い合わせ先（受講申込書などのダウンロード）</b>	<b>10</b>
<b>4</b>	<b>その他</b>	<b>11</b>
4.1	開講日の特別講義など	11
4.2	第1回CoSTEPセミナー	11
<b>5</b>	<b>別表1</b>	<b>12</b>
<b>6</b>	<b>別表2</b>	<b>14</b>

# 1 募集要項

## 1.1 受講資格

科学技術コミュニケーター養成ユニットの授業を受講できるのは、次の2つの要件を満たした方です。

- (1) 大学を卒業した方、またはそれと同等のリテラシーを有する方
- (2) ユニットで学んだことをもとに、将来にわたって継続的に科学技術コミュニケーション活動を行なっていこうという意欲に溢れる方\*

## 1.2 募集人員

本科生：20～30名

選科生：30～60名

選科生は、e-Learningによる受講を基本とする受講生です。選科生は、e-Learningで受講するための環境が整っていることが受講のための前提条件となります。詳しくは、7頁をご覧ください。

選科生は、夏期集中演習を札幌（9月15日～16日に北海道大学札幌キャンパス内の教室）または大阪（8月4日～5日に大阪大学中之島センター（大阪市北区中之島）の教室）で受講していただきます。いずれの会場で受講するかを、応募時に選択していただきます。各会場で30名程度を上限とします。

### 注意

科学技術コミュニケーター養成ユニットを本科生として既に修了した方は、応募できません。

2005/2006年度に科学技術コミュニケーター養成ユニットの選科生であった方は、2007年度の本本科生に応募することができます。

2005/2006年度に科学技術コミュニケーター養成ユニットの選科生であった方は、2007年度の講義の一部について、既に修得済と見なすことができる場合もあります。詳細については、開講後のガイダンスで説明します。

## 1.3 開講期間

2007年5月12日～2008年3月31日

開講式・ガイダンスは2007年5月12日です。修了式は2008年3月中旬を予定しています。（「4.1 開講日の特別講義など」もご覧ください。）

## 1.4 受講申込みの方法

### 申込みの受付期間

\*ここにいう「継続的な科学技術コミュニケーション活動」は、科学館など既存の組織・機関に關係しての科学技術コミュニケーション活動に限られません。Webページでの情報発信、地域の人々のサークルや井戸端會議を通してのコミュニケーション活動など、様々なタイプの獨創的な活動を含みます。

受講生の募集を、下記のとおり第1次と第2次に分けて行ないます。

第1次募集：2007年4月2日(月)～4月16日(月)

第2次募集：2007年5月1日(火)～5月7日(月)

第2次募集は行なわないことがあります。第2次募集を行なうかどうかは、2007年5月1日に、科学技術コミュニケーター養成ユニットのウェブサイトで発表します。

#### 提出書類

受講を希望する方は、次の書類を提出して、受講を申し込んで下さい。

- (1) 受講申込書(所定の様式)
- (2) 志望理由書(所定の様式)
- (3) 課題文(与えられた課題に応じて、任意のA4用紙に。課題は「受講申込書」などとしよにお渡しします)
- (4) ハガキ(申込み受付番号連絡用：おもてに申込者の住所・氏名・郵便番号を記入してください)

本科生と選科生は併願が可能です。受講申込書に、併願するのかもしれないのか、併願するときには本科生・選科生の志望順位を、必ずご記入下さい。

#### 提出先

受講申込みの書類は、以下まで、簡易書留で郵送する(受付期間内に必着するようお送り下さい)か、直接持参(月曜～金曜の、午前9時～正午または午後2時～5時)して下さい。

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目  
北海道大学 科学技術コミュニケーター養成ユニット 事務室  
(北海道大学 理学部本館 N221室)

## 1.5 受講生の選抜方法

### 本科生

本科生については、書類選考と面接により、受講を認める方を決定します。

書類選考の結果は、2007年4月19日に科学技術コミュニケーター養成ユニットのウェブサイトで、書類選考合格者の申込み受付番号および面接日時を発表します。

書類選考に合格した方については、面接を2007年4月21日(土)または4月28日(土)に行ないます。<sup>†</sup>

実習でサイエンス・ライティングのコースを希望する方には、面接においていただいたときに、1時間ほどで小論文を書いていただきます。

<sup>†</sup>応募時に、面接に都合のよい日および時間帯を申し出てください。この2日のいずれもご都合が悪い特別な事情があるときは、応募書類にその旨、ご記入下さい。科学技術コミュニケーター養成ユニットで対応可能な範囲内で事情を考慮することがあります。

選科生

選科生については、書類選考のみにより、受講を認める方を決定します。

書類選考について

書類選考は、受講希望者の経歴、志望理由書、課題文をもとに行ないます。

## 1.6 受講を認める方の発表

本科生・選科生とも、2007年5月1日（火）にCoSTEPのウェブサイトで、合格者の申込み受付番号を発表します。

## 1.7 受講料

受講料は無料です。

ただし、以下の教材費をいただきます。

本科生：20,000円

選科生：10,000円

（このほかに、実習時の交通費などについて実費を負担して頂くことがあります。また、一部の授業では、教科書もしくは参考書を購入していただくことがあります。）

## 1.8 履修方法

科学技術コミュニケーター養成ユニットの受講生には、本科生と選科生の二種類があり、それぞれ次のように履修します。

### 本科生

本科生は、講義、演習、実習（作品制作を含む）を履修します（別表1もご覧ください）。

講義には、講義I、講義II（アーカイブス）、講義III（CoSTEPセミナー）の3種類があります。必修は講義Iですが、さらに深く学びたい方は、講義II、講義IIIも履修することができます。

演習には、演習Iと演習II（ライティング特別演習）の2種類があります。必修は、演習Iですが、さらに演習IIを履修することもできます。

実習（作品制作を含む）には、「メディア実習／プロジェクト実習」（必修）があります。次の7つのコースから1つを選んで履修します。

#### メディア実習

- コース 1) カフェ／ラジオ
- コース 2) グラフィック・デザイン
- コース 3) サイエンス・ライティング

#### プロジェクト実習

- コース 4) 環境学習の場のデザインと評価
- コース 5) リスクをどう伝えるか
- コース 6) 子どもに科学を伝える
- コース 7) 消費者を支援する

### 注意

- a) グラフィック・デザインについては、履修にあたって条件があります。
  - ・ Adobe イラストレーター、フォトショップの使用経験があること
  - ・ 自宅でパソコンを使えることがのぞましい
- b) 各コースとも、履修希望者が少ない場合には、開設しないこともあります。

「作品制作」は、実習の中で、各受講生（または受講生のグループ）が主導して、自分の（またはグループの）作品を作り上げていくものです。「作品制作」については、授業時間外の作業が必要になることもあります。

このほかに、自主作品制作を認めることがあります。これは、受講生が自らの企画をもとに作品を制作するものです。授業時間外に実施するもので、受講生からの提案があったときに実現可能性などを審査したうえで、履修を認めます。

### 選科生

選科生は、講義と演習を履修します。

講義には、講義I、講義II（アーカイブス）、講義III（CoSTEPセミナー）の3種類があります。必修は講義Iですが、さらに深く学びたい方は、講義II、講義IIIも履修することができます。

ます。<sup>‡</sup>

演習には、夏期集中演習と演習II（ライティング特別演習）があります。必修は夏期集中演習だけで、応募時に届け出た会場（札幌もしくは大阪）で受講します。そのほかに、演習IIを北海道大学札幌キャンパスの教室で受講することもできます。

演習Iやメディア実習／プロジェクト実習、自主作品制作は受講できません。ただし、演習Iやメディア実習／プロジェクト実習については、担当教員の判断で参加が認められる場合もあります。その場合の参加の形態は、各担当教員が決めます。自主作品制作も、提案の実現可能性などを審査のうえで、履修を認めることがあります。

## 1.9 評価方法

評価は、「修得」もしくは「未修得」のいずれかとします。（優良可や点数で評価することはありません。）

## 1.10 修得・修了の要件

各科目は、別表1（12頁）に示された「修得の要件」を満たしたときに、修得したと認めます。

本科生で、必修の3科目（講義I、演習I、メディア実習／プロジェクト実習）を修得した方には、科学技術コミュニケーター養成ユニットの「本科生修了証」を授与します。

選科生で、必修の2科目（講義Iと夏期集中演習）を修得した方には、科学技術コミュニケーター養成ユニットの「選科生修了証」を授与します。

なお、科学技術コミュニケーター養成ユニットは、大学院の正規の課程ではありませんので、単位や学位を取得することはできません。

## 1.11 e-Learningで受講するための環境

e-Learningで受講するには、以下の2つの要件を満たしている必要があります。

- (1) パソコンに Windows版のIE（インターネット・エクスプローラー）がインストールされており、それでウェブ・ページを閲覧することができる。
- (2) インターネットで配信される、動画と音声を含むコンテンツを快適に見ることができる程度に、インターネット接続が高速である（ADSL接続や光ファイバー接続など）。

IEはWindows版に限ります（Mac版は不可）。

---

<sup>‡</sup>e-Learningでは、著作権等の関係で一部の授業が配信できない場合があります。選科生は、配信された授業のみを受講すれば修了できます。なお、講義IIIはe-Learningでの配信を行いませんので、札幌キャンパスの教室で受講していただくことになります。

なお、「e-Learningで受講するための環境」が整っているかどうか、実際に確認していただくことができます。詳しくは、以下のウェブページをご覧ください。

<http://costep.hucc.hokudai.ac.jp:8080/e-learning.html>

## 2 カリキュラム概要

授業は、原則として土曜日に3コマあります（10:00～11:30，13:00～14:30，14:45～16:15）。原則として1ヶ月に3回の土曜日に授業があります。詳しくは、科学技術コミュニケーター養成ユニットのウェブサイトで、時間割をご覧ください。

各授業科目の概要は、次の通りです。

### 2.1 講義

#### 講義I

講義Iは9つのモジュールに分かれています。一つのモジュールは、同じテーマについての連続した3コマの講義です。各モジュールごとに、レポートを1本ずつ出していただきます。

モジュールの最終日に設けられている、受講生どうしの「ふりかえり」のための討論時間（本科生のみ）を使って、理解を深めていただきます。また、講義IIと組み合わせて履修することで、さらに効果的に学ぶことができます。

9つのモジュールは、次の通りです。

- 1) 科学技術コミュニケーション概論
- 2) 科学教育
- 3) 科学技術への市民参加
- 4) 科学技術ジャーナリズム
- 5) 情報発信の方法
- 6) 科学技術と文化
- 7) トランス・サイエンスI
- 8) トランス・サイエンスII
- 9) 研究者・研究機関のコミュニケーション活動

#### 講義II（アーカイブス）

2005年度，2006年度にCoSTEPで行なわれた講義の中から，講義Iの理解をより深めるものや講義Iを補完するものなど，選りすぐりの講義を，e-Learningで学びます。

#### 講義III（CoSTEPセミナー）

今ホットな話題について，講師をお招きし，セミナー形式でじっくり議論します。年に8回程度，原則として水曜日の18時30分～20時00分を実施する予定です。（テーマ，講師，開催日は，随時お知らせしていきます。）

## 2.2 演習

演習は、ライティングやグラフィックデザイン、プレゼンテーションなど、科学技術コミュニケーションとしての活動に必要なスキルや、その具体的な応用方法を、担当の教育スタッフが直接指導する授業です。本科生向けには「演習I」を、選科生向けには「夏期集中演習」を、それぞれ必修科目として開講します。また、本科生・選科生共通の選択科目（任意履修）として、ライティングのスキルを特別に指導する「演習II」（ライティング特別演習）も開講します。

### 演習I（本科生向け必修科目）

演習IIは、科学技術コミュニケーションとしての活動に必要なスキルを系統的に演習する「スキル演習」と、そこで学んだスキルを、現実の課題に即していかに応用するかを学ぶ「テーマ演習」の二つの部分から成っています。

「スキル演習」としては、回ごとに「ライティング」「デザイン」「プレゼンテーション」「ファシリテーション」の各スキルを交替で取り上げ、おもに教室内で模擬的な課題に取り組みながら、一歩ずつコミュニケーションとしての技能を身につけていきます。

例えば、ライティングの演習では、ニュース原稿やラジオ番組の台本、科学記事・報告書の執筆など具体的な素材を取り上げて、取材・情報収集から構成、執筆、発表までに必要なスキルを、担当のスタッフの添削指導も交えながら、実践的に学んでいきます。また、科学技術の双方向コミュニケーションが可能な場の創出をめざし、口頭でのプレゼンテーションや、会議・ワークショップなどを効果的に企画・運営するためのファシリテーションについても、実技を交えた演習をしていきます。

「テーマ演習」は9月ごろから6回程度の予定で実施します。数人から10人程度のグループに分かれて「スキル演習」で身につけた様々なスキルを、実際の問題に即してどのように活用していくかを、より実践的な課題を通じて学んでいきます。教育スタッフが用意する複数のテーマ演習（ゼミ）から一つを選択し、履修していただく予定です。具体的な構成は、5月の開講後に、皆さんの学習状況などを考慮して決定し、発表します。

### 夏期集中演習（選科生向け必修科目）

本科生対象の演習I（上記参照）のスキル演習部分のエッセンスを、選科生向けに短期集中（計2日間）で実施する科目です。8月4日・5日に大阪大学中之島センターで、9月15日・16日に北海道大学札幌キャンパスで開講しますので、どちらか都合の良い方を選んで受講することができます（内容は各回とも同じです）。

この演習の目標は、科学技術コミュニケーションとしての実践活動に必須の基本スキルを習得することです。2日間の詳しい時間割は、CoSTEPのウェブサイトなどで追ってお知らせします。

### 演習III（ライティング特別演習）

ライティングの指導で定評のある山下好孝先生（北海道大学留学生センター）が開講する授業です。5月19日（土）に山下先生が担当する演習Iの授業を引き継ぐ形で、水曜日の夜に、5回×2クール（計10回）行ないます。ライティングの基礎から応用まで、実践的な指導を受けることができます。具体的な日程は受講生と相談のうえで決めます。

## 2.3 実習（作品制作を含む）

### メディア実習／プロジェクト実習

実習では、学内にとどまらず市民や科学者と直接触れ合い、学外に成果を問うような場を設定し、アウトリーチを強く意識した技能を身につけることを目指します。実習の題材や場所は教室に限定せず、一般社会での発表や実地学習を用意し、講義や演習で学び高めたスキルを生かしていきます。

メディア実習には3つのコース、プロジェクト実習には4つのコースがあります。メディア実習では、メディアの特性に注目して実践的スキルを修得します。他方、プロジェクト実習では、社会のなかにある解決すべき問題に注目し、問題解決をめざした活動を行ないながら実践的スキルを身につけていきます。<sup>§</sup>

各コースの詳細については、別表2（14頁）をご覧ください。

「作品制作」は、実習の中で、各受講生（または受講生のグループ）が主導して、自分の（またはグループの）作品を作り上げていくものです。「作品制作」については、授業時間外の作業が必要になることもあります。

### 自主作品制作

予めカリキュラムに用意された以外に、自ら作品制作の計画を提案し、教員の指導のもとで実施することができます。たとえば、博物館の展示企画、児童向けワークショップ、出前授業、映像作品制作、広報誌制作、模擬コンセンサス会議などの分野で、作品制作を行なうことが考えられます。

自主作品制作は、授業時間外に実施していただきます。また、提案をもとに実現可能性などを審査し、認められた場合に限り実施することができます。

## 3 問い合わせ先（受講申込書などのダウンロード）

受講申込みに関する問い合わせは、下記までご連絡下さい。

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学 科学技術コミュニケーター養成ユニット 事務室

（北海道大学 理学部本館 N221室）

電話 011-706-3276

e-mail office@costep.hucc.hokudai.ac.jp

受講申込書などは、以下のウェブ・ページからダウンロードすることもできます。

<http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/>

<sup>§</sup>CoSTEPでは、2006年11月～12月に、プロジェクト実習にふさわしい課題を公募しました。それに対し、道外からも含め15課題の応募がありました。そのなかから実現可能性などを考慮して5つの課題を選び、2007年度プロジェクト実習のコースにまとめました。教育・研究機関と社会とのこのような協働のあり方は、欧米で「サイエンス・ショップ」あるいは「コミュニティ・ベースト・サイエンス」と呼ばれているものです。

## 4 その他

### 4.1 開講日の特別講義など

開講第1日と第2日は、以下のような内容で授業を行いません。両日とも、選科生の方もぜひご出席ください。

5月12日（土）

第1部：特別講義 13時00分～15時50分<sup>¶</sup>

秋山 仁 氏（東海大学教育研究所 教授）

元村有希子 氏（毎日新聞社東京本社科学環境部 記者）

第2部：ワークショップ 16時00分～17時30分

第3部：ウエルカム・パーティー 18時00分～20時00分

5月13日（日）

9時00分～15時30分

CoSTEP特任教員によるシリーズ講義

### 4.2 第1回CoSTEPセミナー

CoSTEPセミナーの第1回目は、5月17日（木）18時30分～20時00分に開催します。

テーマ：科学における捏造

講師：村松秀 氏

村松秀氏は、NHKディレクターとして、「NHKスペシャル」「クローズアップ現代」「サイエンスアイ」等を担当し、環境、先端科学、医療、生命倫理など、主に科学系番組の制作に携わってこられました。BSドキュメンタリー『史上空前の論文捏造』（2004年放送）で、バンフテレビ祭・ロッキー賞を受賞されています。その番組をもとに著わした『論文捏造』（中央公論新社）も話題になっています。

---

<sup>¶</sup>CoSTEP受講生以外にも公開します。ただし、受講生以外の方は、事前の申込みが必要です。詳細は、追ってCoSTEPのウェブサイトでご案内します。

別表1

カリキュラム		本科生	選科生	備考
講義	講義Ⅰ	履修方法 必修 (原則として教室で受講)	必修 (e-Learningで、または教室で受講)	9つのモジュールがあります。 (1モジュールは3コマで構成されます。)
		修得の要件 1) すべての授業を受講(27コマ中9コマまでe-Learningで代替可) 2) 各モジュール終了後に、モジュールに対応したレポート1通を提出(講義全体で9回提出)	1) すべての授業をe-Learningで、または教室で受講 2) 各モジュール終了後に、モジュールに対応したレポート1通を提出(講義全体で9回提出)	各モジュール終了日の14:30～15:30に「ディスカッション・タイム」を設け、レポート作成に向けてのディスカッション(ふりかえり)を行います。 「ディスカッション・タイム」には、可能な限り参加することを推奨します。
	講義Ⅱ (アーカイブス)	履修方法 選択 (e-Learningで受講)	選択 (e-Learningで受講)	2005年度、2006年度にCoSTEPで行なわれた授業の中から、講義Ⅰの理解をより深めるものや講義Ⅰを補完するものなどを中心に、インターネットを通して配信します。
		修得の要件 2/3以上を視聴	2/3以上を視聴	
	講義Ⅲ (CoSTEPセミナー)	履修方法 選択 (教室で受講)	選択 (教室で受講)	年に8回程度実施します。 (原則として水曜日の18:30～20:00)
		修得の要件 1) 出席率50%以上 2) ディスカッションへの積極的な参加	1) 出席率50%以上 2) ディスカッションへの積極的な参加	
演習	演習Ⅰ	履修方法 必修 (教室で受講)	/	各担当教員が認めれば、選科生も参加できる場合があります。その場合の参加の形態は、各担当教員が決定します。
		修得の要件 出席率70%以上		
	演習Ⅱ (ライティング特別演習)	履修方法 選択 (教室で受講)	選択 (教室で受講)	水曜日:18:15～ 5回×2クール 日程は受講生と相談のうえで決定します。
		修得の要件 1) 出席率70%以上 2) 課題の提出率70%以上	1) 出席率70%以上 2) 課題の提出率70%以上	

カリキュラム		本科生	選科生	備考
演習	夏期集中演習	履修方法	必修 (札幌または大阪の教室で受講)	札幌および大阪で、同じ内容のものを実施します。* 特段の事情がない限り、応募時に届け出た会場で受講してください。
		修得の要件	2/3以上を受講	
実習 (作品制作を含む)	メディア実習／プロジェクト実習**	履修方法	選択必修 (7つのコースから1つを選んで受講)	特段の事情がない限り応募時の面接で申し出たコースを選択して受講する。  各担当教員が認めれば、選科生も参加できる場合がある。その場合の参加の形態は、各担当教員が決めます。
		修得の要件	1) 出席率70%以上 2) 制作した作品が所定の目標に達していること	
	履修方法	選択	選択	受講生から「自主作品制作」の提案があったときに、実現可能性などを審査の上で認めることがあります。  授業時間外に実施します。
	修得の要件	制作した作品が所定の目標に達していること	制作した作品が所定の目標に達していること	

は必修科目です。

\* 大阪会場(大阪大学中之島センター)での夏期集中演習の実施は、大阪大学コミュニケーションデザイン・センターの協力を得て実施します。

\*\* 実習の中で、ある人(またはグループ)が主導して作りあげる作品の制作過程が「作品制作」です。(「作品制作」については、授業時間外の作業が必要となることもあります。)

## 別表2

### メディア実習

コース	目的	内容	身につくスキル	受講していただきたい方
カフェ/ラジオ	<p>1)サイエンス・カフェやラジオ番組などの媒体を使って、科学技術の様々な話題について、双方向コミュニケーションの場をつくり出すスキルを身につけます。</p> <p>2)イベント・放送番組の制作に取り組みながら、メディアを総合的に使いこなす技法を学ぶ実習です。</p>	<p>*月1回のサイエンス・カフェ札幌(月1回)の企画・運営</p> <p>*ラジオ番組「かがく探検隊コーステップ」(月2回)の制作</p> <p>実習時間には、番組収録やイベントの実施(本番)のほか、随時、番組・イベント制作のための編集会議を行います。 その他、取材・調査を始めとする準備活動に各自都合のよい時間に取り組んでいただきます。</p>	<p>企画立案、調査・取材、インタビュー、口頭でのプレゼンテーション、ファシリテーション、1個のイベントや番組を仕上げるためのマネージメントなど、科学技術コミュニケーターに必要なスキルが総合的に身につきます。</p>	<p>科学技術の話題について幅広い関心を持ち、それらを放送番組やイベントの企画・制作に結びつけるための熱意とアイデアをお持ちの方</p>
グラフィック・デザイン	<p>この実習は“デザイン専門学校”での勉強に替わるものではありません。</p> <p>しかし、CoSTEPの活動を広報することで、グラフィックデザインの基本を学びながら、科学技術コミュニケーションを実践的に学ぶことができます。</p>	<p>*毎月開かれるサイエンスカフェの広報</p> <p>*広報の作成(不定期)</p> <p>毎月3回の実習はゼミ形式の勉強会・打ち合わせになります。実際の作業は、実習時間外にさせていただくことになります。自宅作業は毎週2~5時間程度です。</p>	<p>1年後にはコミュニケーションツールとして新たな力が得られることを約束します！</p>	<p>プロのグラフィックデザイナーになるつもりはないけれど、自分の作るポスターやホームページをよりかっこよくする方法を学びたい、という方を対象にします。</p>
サイエンス・ライティング	<p>「ストーリー」のある科学技術コミュニケーションを創出するための手法を学びます。</p> <p>科学コミュニケーションのコンテンツ制作の根幹となる技術、「ライティング」に焦点をあてますが、書き、読んでもらうための複合的なスキルが身につきます。</p>	<p>効果的な科学広報を研究しながら</p> <p>*北大内外の科学広報記事の作成</p> <p>*Webコンテンツの作成(書評その他)</p> <p>*研究機関の広報支援</p> <p>*新聞その他の媒体への執筆</p> <p>などを行っていきます。</p> <p>記事の企画・取材・インタビュー・構成・執筆・推敲・完成まで広報物の作成を一人でできるように、クライアントのある仕事を体験していただきます。取材、執筆などは授業時間外になります。</p>	<p>記事を仕上げるために必要な、企画力、取材力、コミュニケーション力を身につけていただきます。</p>	<p>ライティングを集中して学びたい方</p> <p>責任を持って締め切りまでに仕事ができる方</p>

### プロジェクト実習

コース	目的	内容	身につくスキル	受講していただきたい方
環境学習の場のデザインと評価	<p>1)北大の自然や、北大で行われている研究について、理解や関心を深めます。</p> <p>2)主に中高の教員を支援するための環境教育プログラムを策定し利用してもらいます。</p> <p>3)北大を利用した環境教育プログラムを、別の場所で応用可能なものにカスタマイズできるか検討します。</p>	<p>*すでに実施されている、北大構内を利用した一般向け環境教育プログラムの検討を行います。</p> <p>*北大構内の自然環境を題材とした北大研究者の研究を利用し、環境教育プログラムの開発を行います。</p> <p>*開発した教育プログラムを実施します。</p> <p>*プログラムを、社会貢献(SR)の視点で評価します。</p> <p>*評価に基づいたプログラムの改善・ソフト化を行います。</p>	<p>調査力</p> <p>企画力</p> <p>ワークショップ実践力</p>	<p>環境教育に関心がある方</p> <p>中高の学外授業プログラムの開発に関心がある方</p> <p>SR, SRの評価に関心のある方</p>

## プロジェクト実習

コース	目的	内容	身につくスキル	受講していただきたい方
リスクをどう伝えるか	「津波によるリスク」をテーマに選び、一般市民にリスクを正しく理解してもらうための方法や手順の開発をめざします。	<p>*北海道厚岸町をモデル地域とします。</p> <p>*500年に一度程度やって来る津波の予測データを使った「津波ハザードマップ」を専門家の協力で作ります。</p> <p>*わかりやすく、しかも実際に使えるハザードマップ作りをめざします。</p> <p>*町内の1～2の地区を対象に、ハザードマップを用いて具体的な避難計画をつくります。</p> <p>*地域住民と専門家によるワークショップを開いてマップの意味を理解してもらいます。</p> <p>*調査のために、現地を訪問することがあります(旅費は原則として自己負担です)。</p>	<p>専門的な情報をわかりやすく伝える力</p> <p>行政や地域住民などとの調整力</p> <p>ワークショップ実践力</p>	<p>特に地震・津波に関する専門的知識は必要ありません。</p> <p>基礎的なところは実習に入ってからみんなで勉強します。</p>
子どもに科学を伝える	<p>1)地域の学校・科学館などで子どもを対象とした科学教育の実践を行います。</p> <p>2)初等中等教育の教員を科学コミュニケーションの観点から直接的に支援します。</p> <p>3)研究者のアウトリーチ活動の支援をおこないます。</p> <p>4)作成した授業案などを、他の学校や科学館などで利用できるようにします。</p>	<p>複数の学校を対象として、</p> <p>*地域の学校などを訪問し、学校教員のニーズの調査や先行事例調査を行います。</p> <p>*研究者から聞き取りを行い、アウトリーチのニーズを調査検討します。</p> <p>*開発した授業プランを提案します。</p> <p>*学校教員と相談の上、授業や研修を実施します。</p> <p>さらに、</p> <p>*実践を評価し、報告書を作成します。</p> <p>*作成した授業案を、他の事例でも応用可能なものにします。</p>	<p>企画構成力</p> <p>プレゼン力</p> <p>子ども対象ワークショップ実践力</p>	<p>子どもの理科・科学教育に関心のある方</p> <p>教育機関と協働したい方</p> <p>アウトリーチをしたい研究者・大学院生</p>
消費者を支援する	<p>1)消費者が商品に含まれる科学的情報を読み解く力を身につけられるよう、支援します。</p> <p>2)市民講座を開催するための、準備から実施にいたるまでの実践的スキルを修得します。</p>	<p>*生活に密着した商品について、科学的情報をわかりやすい内容に変換する作業を行います。</p> <p>*ワークショップ形式の市民講座を行うための企画立案を行います。(市民講座は9月から10月に第1回目を実施する予定です。)</p> <p>*市民講座に、プレゼンター、ファシリテーターとして参加します。</p> <p>*企画から実践までを通して活動を振り返り、消費者支援プログラムを作成し、マニュアル化します。</p> <p>*必要に応じて、行政や研究機関、消費者団体に出向き、情報収集も行います。</p>	<p>コンテンツ作成力</p> <p>企画立案力</p> <p>ワークショップ実践力</p>	<p>市民サイドに立った科学技術コミュニケーションに関心のある方</p>